

名古屋の古道・街道

池田 誠一

【8】水野街道…大曾根から大森へ

1 尾張藩開祖・義直と定光寺

尾張藩の開祖とされる徳川義直は、晩年の家康にかわいがられ、御三家として名古屋城を拠点に62万石を領しました。大坂の陣に初陣してその才能を認められ、一方では学問を重んじ、「神祇宝典」始め多くの書物を著すなど、文武に優れた領主でした。

彼は鷹狩をよく行い、西部の木曾川沿いや東部の丘陵地で狩をして武を練りました。とくに東北の水野(瀬戸市)付近の山林には度々出かけ、その風光を愛したといえます。そしてよく立ち寄った定光寺に土地を寄進し、自らの墓所とするよう遺命しました。定光寺は1366年開創の古

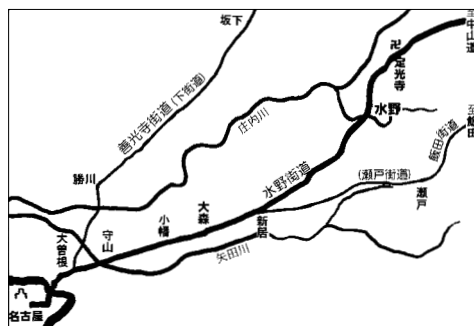


図1 水野、定光寺への道

刹で、その本堂の奥に義直の墓所があります。

藩の開祖の墓所ができた定光寺は代々の藩主が度々訪れる所となり、大曾根を出て新居(尾張旭市)、水野を通過して定光寺へと続く道は「水野街道」とか、地元では殿様街道などと呼ばれる街道になりました。(図1)



定光寺にある義直の廟

2 墓参の道、代官所への道…水野街道

(1) 御林方奉行所と代官所の設置

2代藩主光友は、1661年、父の愛した水野の地に、この地方(春日井から知多半島まで)の山林の保護と取締りをする奉行所を作りました。陶器の焼き物が盛んで、その燃料として無計画な山林の伐採が進んでいたからです。

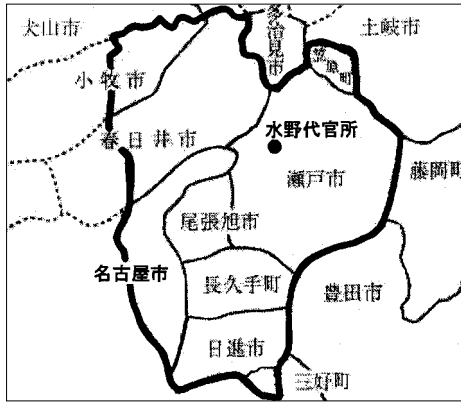


図2 水野代官所の所管区域

また1781年には代官所が置かれました。藩のできた頃は国奉行が管理していましたが、地域に代官所を置くようになったのです。尾張では城下を治める大代官の他、鳴海、横須賀、佐屋、清須、小牧など八箇所に置かれました。水野代官所は春日井から瀬戸、長久手、日進にまたがる地域で、名古屋市の東部も管轄でした。(図2)代官所は藩と村をつなぐものとして、徴税はもとより土木工事や警察・裁判の仕事などを担当しました。

このように水野の地が尾張東北部の行政の中心になっていった背景には、藩祖が愛し、そして眠る定光寺への道があったような気がします。それとともに、城下と水野を結ぶ街道も藩にとって欠かせぬものになっていきました。

(2) 瀬戸街道では？

水野街道は、現在、市内では瀬戸街道といわれているものです。瀬戸は古くから焼き物の産地ですが、江戸時代に瀬戸街道と呼ばれたかどうかははっきりしません。尾張志の地図では瀬戸ではなく水野に向かう道が太線になっています。また尾張恂行記には瀬戸街道という名はなく、水野街道と並んで信州飯田街道とか品野街道がでています。瀬戸街道という名は明治になって定着したのかもしれませんが。

(3) 水野街道

水野街道は公道ではありません。従って、上に述べたように正式な名前もなければ、起点や終点も決まっていません。名古屋城下から大曽根、守山、小幡、大森、新居を通り、水野、定光寺をむすぶ道であり、その延長は善光寺街道の土岐川増水時のバイパスに利用される道でした。同時に途中の新居から分かれて瀬戸や品野を経て信州飯田に向かう道でもあったのです。

3 大曽根から大森へ

市内の水野街道を歩いてみましょう。スタートは善光寺街道と分かれる大曽根です。(図3)分岐点は JR 大曽根駅の西広場の中ですが、現在は工事中です。以前はその分岐点に石碑がありました。今は少し西にいった薬師殿に移さ

大曽根三差路にあった石碑

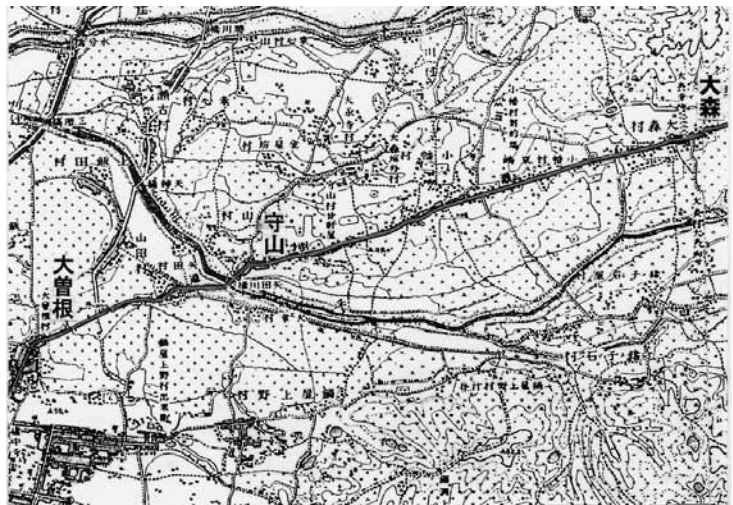


図3 市内の水野街道(明治21年)

れています。石碑は次のように読めるよう
です。

左：「江戸みち せんくわうしみち」

右：「いみたみち」

*

さて、「いみたみち」はそのまま東北に
向かいますが、鉄道の高架橋と道路の環
状線と交差することになり、まったくイ
メージがわかりません。この付近は明治の
地図では一面の田で、鉄道が街を大きく
変えたことがわかります。街道は宅地の
中に消え、環状線の本北の道を東に、
一つ目の信号辺りに出てきて東に向かいます。

次の信号を越えた所から少し道が狭くなっ
て昔の矢田村に入り、旧道らしくなります。少し
坂を登ると名鉄の瀬戸線に平行になります。こ
こが江戸時代中期までは矢田川の堤防でした。

1767年、大水害が襲いました。矢田川はそれ
まで長母寺の南を流れていましたが、濁流は北
の土地を突き破り、川は寺の北を流れるよう
になったのです。今まで守山側にあった長母寺は
矢田側の地続きになってしまいました。(図4)

名鉄を渡った所で、木が崎公園を抜けて長母
寺に寄ってみます。この公園は昔、川が流れて
いた所で、つきあたって階段を登ると長母寺で
す。守山台地の先端にあった寺は、1179年山田
荘の主、山田重忠がその母のために創建しまし
た。開山は「沙石集」で有名な無住国師です。重
忠は、長父寺(今の永永寺とも)、長兄寺(現、
長慶寺)も建てたといいますが、承久の変で悲



長母寺

劇の人となりました。寺の裏は矢田川で、対岸
には守山城址の森が見えます。

*

矢田川橋にもどり、渡って左に曲がり右に進
むと守山城の跡に出ます。守山城には「守山崩
れ」という歴史上有名な話があります。

1530年代、清須の織田を攻めるために松平清
康(家康の祖父)は守山城に布陣しました。が、
ある夜小さな誤解から清康は家来に殺されてし
まいました。長男はまだ小さく、軍は総崩れで
三河に戻り、今川の協力を仰ぐことになりました。
それがもとで家康は今川と織田の人質を渡
り歩くことになったのです。

階段を登ると清康の菩提を弔う宝勝寺があり
ます。本丸の跡は一度東側の道路に出て左へ、
竹藪に埋まった堀の北側にある小山の上、急な
崖をよじ登った所に石碑があります。

*



図4 長母寺と新旧の矢田川左岸



守山城跡本丸跡

さて、南東に戻ると街道に出ます。少し先に左に分かれて行く細い道があります。これが水野街道の旧道です。街道はすぐ右に曲がります。この付近に最近まで萱葺きの家もありました。残念ながら、わずか100メートルでまた車の輻輳する街道に戻ります。これから先は大森まで、街道は拡幅されて昔の面影はありません。道は真直ぐに東に進みます。

古図を見ると守山村から小幡村へと続く街道の南には家老成瀬氏の土地が目立ちます。守山の二十軒家も成瀬氏が住ませた所といわれており、この街道には名古屋城から木曾への城主の逃避ルートのおいがします。

宮前の交差点手前に南に笠寺道があります。尾張四観音の巡礼道で、ここは竜泉寺から笠寺観音に向かう道です。少し前までは名鉄に「笠寺道」という駅がありました。

高速道路を越えると街道は大森に入ります。左手に山が迫り、その中に女子大への道の左に



光友の生母の菩提寺、大森寺

古代に山田の連が創建したという八剣神社、右に2代藩主光友の生母歎喜院の菩提寺大森寺があります。重厚な門を入ると苔むした境内の奥に墓所があります。昔は街道から寺に真直ぐの参道がありましたが、今は消えてしまいました。

4 義直と大森

藩祖義直が愛し、2代光友がこだわった水野街道には一つのエピソードがあります。

義直の正室は紀州浅野家の春姫であることはよく知られています。しかし春姫には世継がありませんでした。水野に狩に出た途上、彼は一人の娘を見つけます。丈夫そうな農家の娘でした。しばらくしてお城使えになったその娘に男子が生まれました。周囲の詰問に義直は自分の子であることを明かし、2年後正式な跡取となりました。それが光友で、家光の一人娘を娶り、御三家筆頭の座を揺るぎ無いものにした名君でした。

水野街道は2代藩主の生母の故郷であり墓所である大森への道にもなったのです。

たやすなよと 詠まれし寺や 虫の声

〈主な参考文献〉

- ①桜井芳昭「尾張の街道と村」(1997、第一法規出版社)
- ②小林元「矢田川物語」(1980、愛知郷土資料刊行会)
- ③その他、尾張志、尾張殉行記など



守山口にわずかに残った旧道



笠寺道と旧名鉄駅